

平成29年度広葉樹等侵入状況調査結果

1 調査地の概要

所在地：真庭郡新庄村字ウルウタニ地内

樹種・林齢：ヒノキ 47年生

主な施業履歴：平成17年 列状間伐（5残5伐）（1,400本/ha→700本/ha）

2 調査区の設置と調査方法

列状間伐区(間伐区)とヒノキ残存区(残存区)それぞれに調査区を設定(図-1)し、階層(図-2)に分けて広葉樹の樹種ごとの生育本数調査及びヒノキ造林木の樹高、胸高直径、クローネ幅の測定を行った。

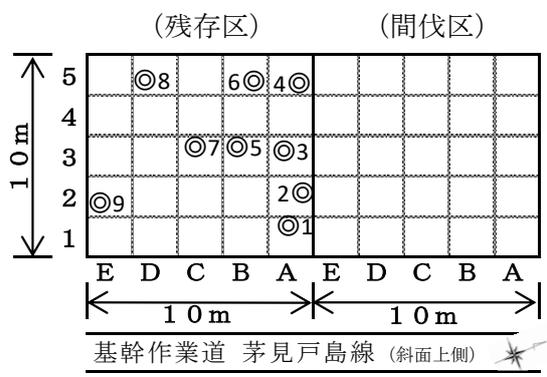


図-1 調査区画図 ◎ヒノキ

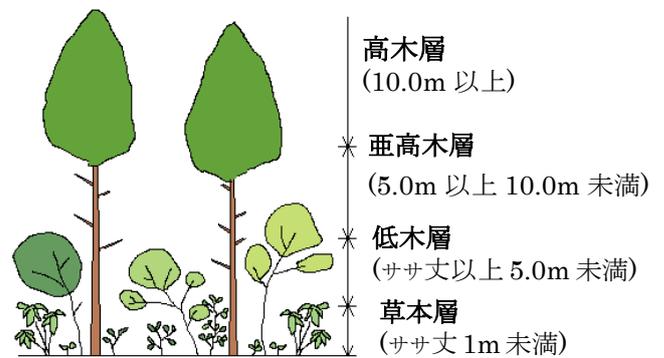


図-2 調査地模式図

3 広葉樹の侵入状況

間伐区におけるササ丈(約1m)以上の高木、亜高木、低木の平均樹高、本数を図-3、4に示す。

平均樹高は高木、亜高木ともに330cmであり、低木も290cmであった。平成25年と比較すると、高木は90cm増加し、亜高木は120cm増加した。

生育本数は間伐区、残存区ともに低木が多く高木が少なかった。また、平成25年と比較して全ての階層で本数が減少している。

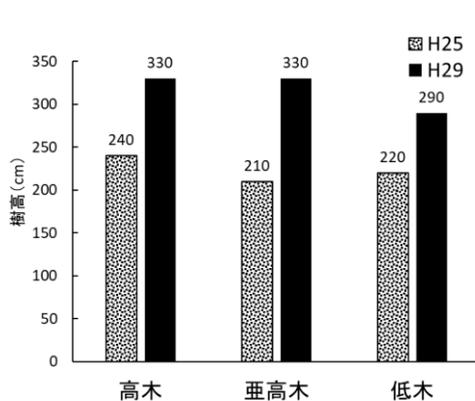


図-3 間伐区の樹高平均値

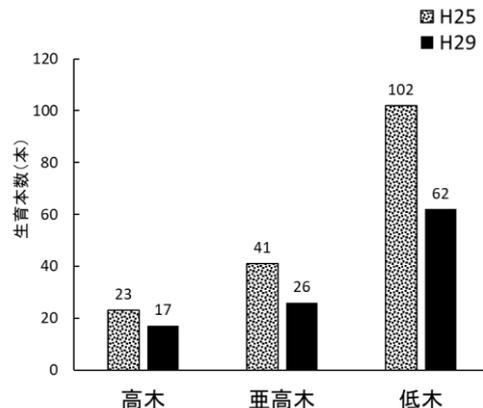


図-4 間伐区の生育本数

4 ヒノキ造林木の生育状況調査結果

残存区のヒノキはやや混み合っているが、樹高、胸高直径、クローネ幅とも増加しており平成 20 年以降成長を続けている。

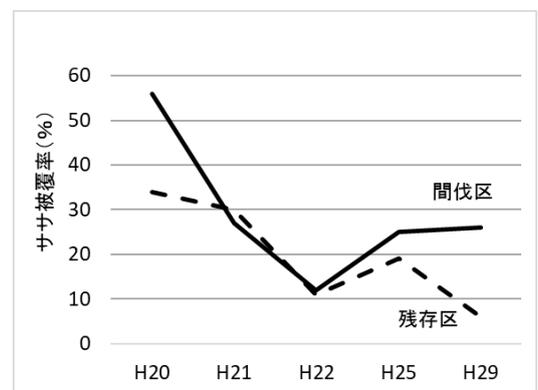
表－1 ヒノキ造林木の生育状況（残存木 9 本）の平均値

	H20	H21	H22	H25	H29
樹 高 (m)	13.0	14.0	14.0	14.7	15.7
胸高直径 (cm)	22.8	23.6	24.3	26.1	29.0
クローネ幅 (m)	2.2	2.3	2.3	2.6	2.7

5 ササ類の被覆率調査結果

チマキザサの被覆率は減少傾向にある。平成 29 年の調査において、間伐区は被覆率に変化が見られなかった一方、残存区は被覆率が 10% を切っていた。

これは照度不足によってササが減ったと考えられ、今後、広葉樹の侵入及び生育への影響は小さくなると思われる。



図－5 チマキザサの平均被覆率 (%)

6 現地写真



残存区



間伐区

7 考察

間伐区では広葉樹の生存競争が起こっており、競争に負けた樹種が淘汰され、最終的に高木性の樹種は高木層でヒノキと混交すると考えられる。一方、残存区では亜高木性、低木性の樹種が間伐区に比べて平均樹高が低いにもかかわらず、本数の減少が同じであることから、競争よりも、残存区内の照度不足が広葉樹の生育に大きな影響を与えていると考えられる。